



## ウィークリーシグナル

2026年2月20日

## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位:億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/23 (月)				天皇誕生日			
2/24 (火)	▲ 300	▲ 7,100	▲ 7,400	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 3,800		米:消費者信頼感指数 (2月)
2/25 (水)	+ 1,000	+ 4,000	+ 5,000				日:基調的なインフレ率を捕捉するための指標 欧:ユーロ圏CPI (1月)
2/26 (木)	+ 100	▲ 1,500	▲ 1,400	流動性供給			日:高田日銀審議委員、京都府金融経済懇談会で講演 欧:ユーロ圏消費者信頼感指数 (2月)
2/27 (金)	+ 100	+ 7,100	+ 7,200				日:鉱工業生産 (1月) :小売売上高 (1月) 米:PPI (1月)

## &lt;インバウンド&gt;

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比11,500億円減少の461兆6,200億円から始まった。その後、国債の発行償還、各種財政資金の支払い等の要因により増減し、20日は460兆2,100億円(速報)で越過した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.728%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は概ね横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.722%~0.990%のレンジ、1M~3M物0.810%~0.950%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では26日に高田日銀審議委員の京都府金融経済懇談会での講演、海外では25日にユーロ圏CPI(1月)の公表、27日に米PPI(1月)の公表などがある。

## [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.728
1M	0.78 ~ 0.90
2M	0.85 ~ 1.00
3M	0.90 ~ 1.20
6M	1.00 ~ 1.30

## [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70%台
CP 3M	0.85 ~ 1.00

## &lt;レポ&gt;

足許GCは週を通して0.745%~0.755%の狭いレンジで取引された。買い入れオペや短国債の発行等の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470~480回債、5年155~183回債、10年356~371、378~380回債、20年110~130回債、30年86~88回債などに引合いが見られた。20年195回は発行日前に、低い水準での出合も見られた。

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約1兆5,690億円で、週間償還額の1兆5,206億円を上回った。発行残高は、先週末時点の26兆1,501億円から、2月19日時点での26兆5,784億円へと増加した。発行市場では、ガス業・小売業・卸売業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.70%台後半から0.90%台、3ヶ月物で1.0%近辺と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約3兆5,000億円となっている。発行市場は、月末週の大量償還に合わせて、活況なマーケットが見込まれる。発行レートは、日本銀行が利上げを継続する姿勢を示していることから、引き続き水準を見極める展開が続くだろう。

## &lt;TDB&gt;

19日の1Y(1363回債)の入札は、最高落札利回り1.0482% (前回債0.9764%)、平均落札利回り1.0411% (前回債0.9693%)となった。

20日の3M(1364回債)の入札は、最高落札利回り0.7781% (前回債0.7635%)、平均落札利回り0.7573% (前回債0.7538%)となった。

来週の入札は27日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。